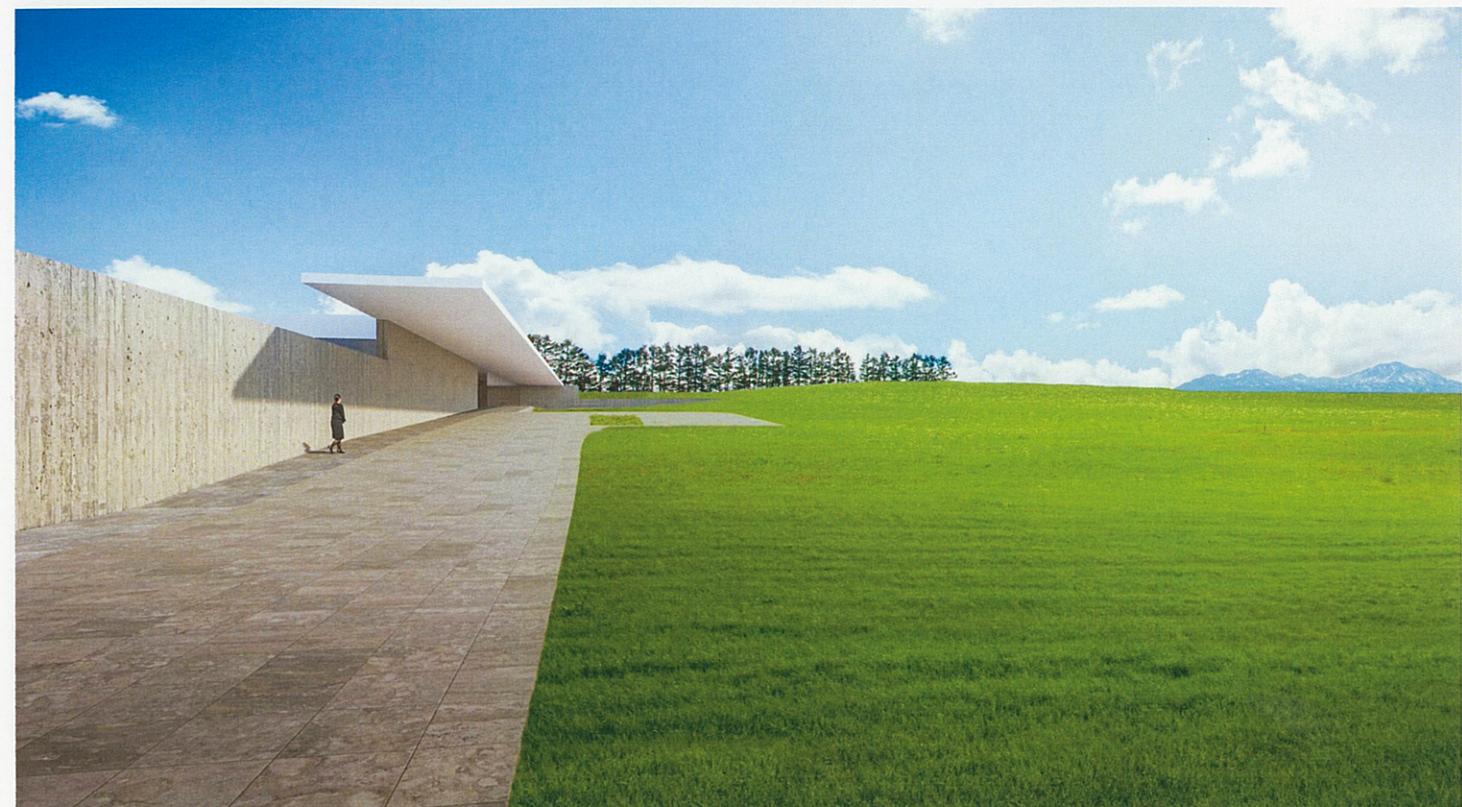


## 雄大な田園風景を望む永遠の安らぎと癒しの場 大雪葬斎場



雄大な田園風景、大雪山や十勝岳連峰の美しい景観に調和する建築とランドスケープ。周辺地域の景観と葬送習慣を丁寧に読み解き、残された遺族に寄り添う場所を提案する。大雪葬斎場が町の日常風景の一部として地域に根ざす葬斎場となることを目指す。

特定テーマ①周辺環境と調和した癒しの葬儀場　イ)火葬機能を有する施設としての外観デザイン

### 3.風景と調和した落ち着いた佇まい

道道旭川空港線や周辺環境から垣間見える外観には細心の注意を払いつつ、最後の別れの場に相応しい佇まいを目指す。また雄大な地形に馴染み、町の日常風景の一部として調和する葬斎場の構えをデザインする。

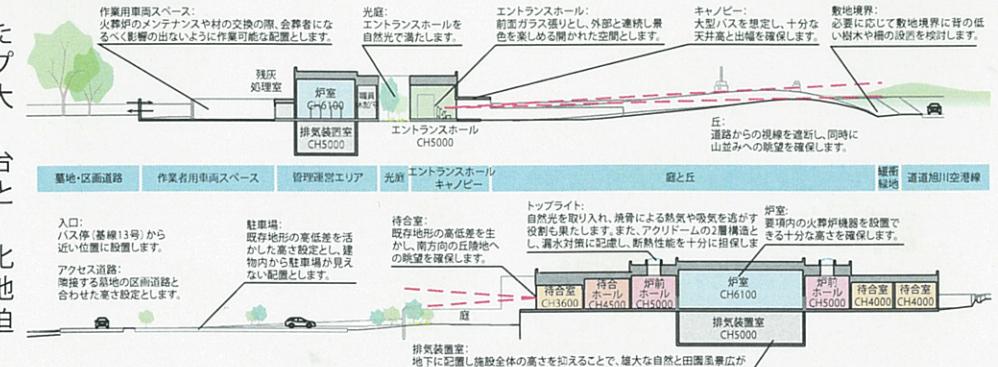


## 5. 斷面計画

既存地形の段差/高低差を有効に活用した建物、庭、駐車場ゾーニング計画を行い、プライバシーの確保された部屋に美しい大雪山・十勝岳連峰眺望を取り込む。

高齢者や車いす使用者、及び柩を乗せた台車の移動を考慮し、全室をバリアフリーとする。

各部屋の天井高は葬送儀式や心境の変化に寄り添うよう配慮する。排気装置室は地下に設置し、高い建物のない周囲への圧迫感を軽減する。



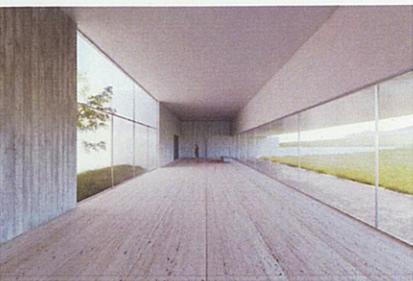
特定テーマ①周辺環境と調和した癒しの葬斎場 ア)周辺環境と調和した敷地全体のゾーニング  
特定テーマ②誰にでも利用しやすい、優しい葬斎場 ア)プライバシーに配慮し個別化した計画

### 1.3 町の風景特性に調和する全体計画



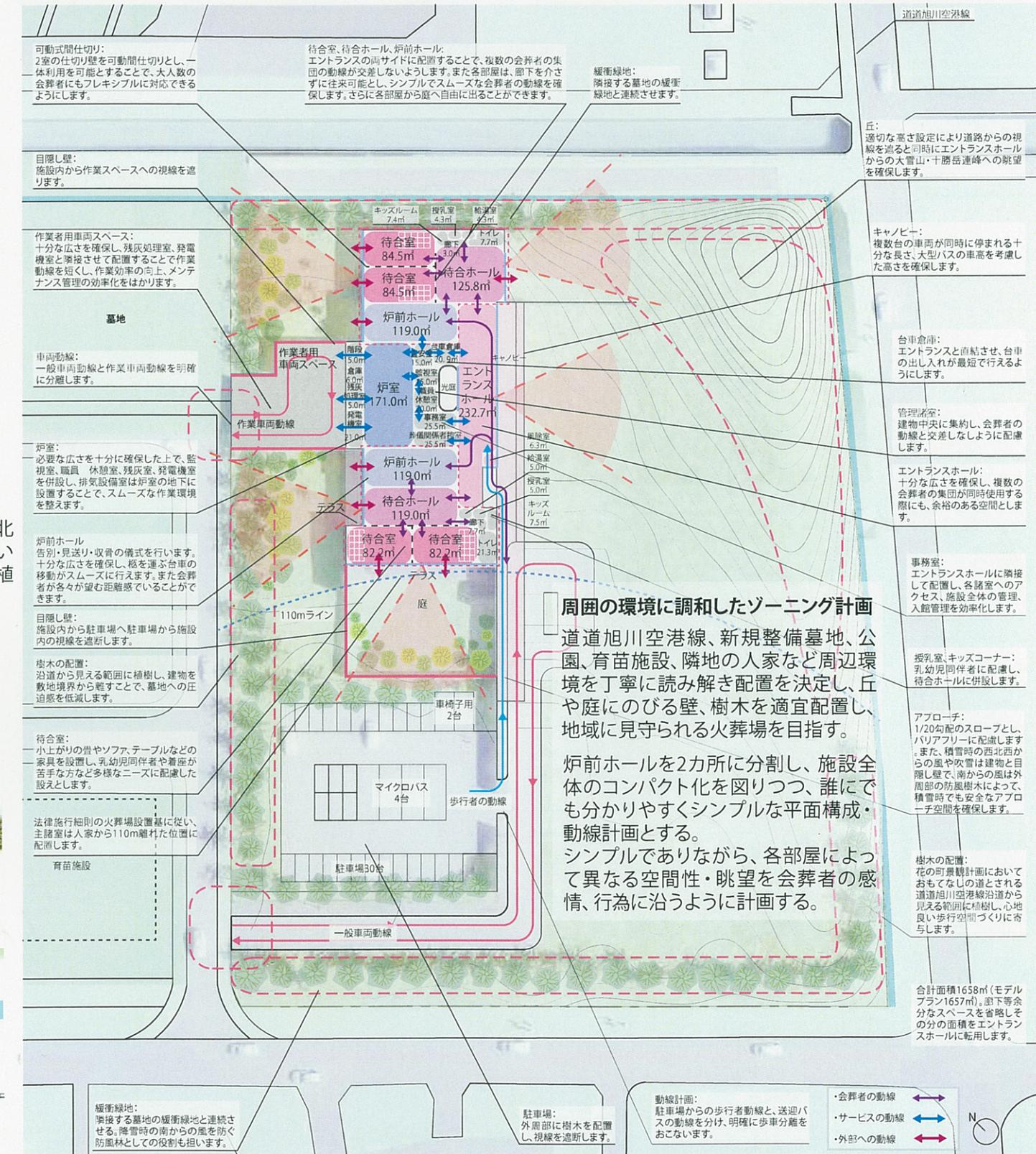
3町のコンパクトな中に凝縮された多種多様な景観要素

建物ボリュームを最小限にし、各部屋の大開口から風土に根ざした樹木や花々の大小の庭、眺望とプライバシーを守る伸びやかな丘が広がる。遠景には大雪山や十勝岳連峰など、日常見慣れた山並みが展開し、町のどこにいても見守ってくれる風景とともに弔う構成とする。



エントランスホールを広くとり、同時受入れの際、ゆとりのある空間、動線を提供する。

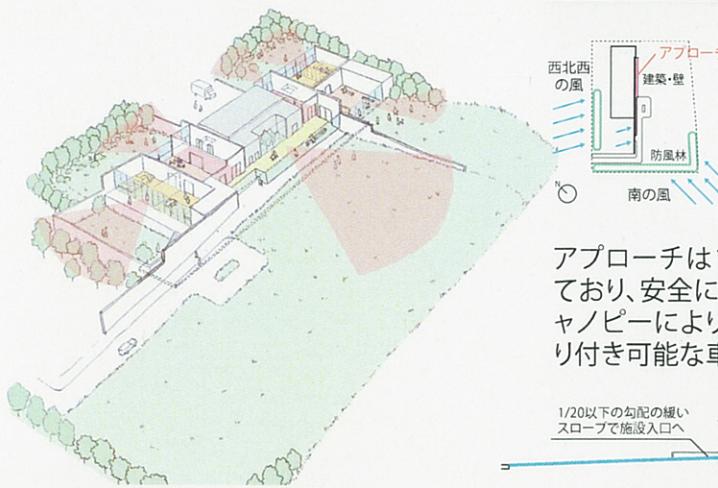
## 2.機能的でコンパクトな諸室ゾーニング



## 特定テーマ②誰にでも利用しやすい、優しい葬斎場 イ)ユニバーサルデザイン等に配慮した計

### 6.この場所はならではの美しい風景に開いた諸室

それぞれの部屋が異なる美しい郷土の風景に開き、行為とともに場面が切り替わることで残された遺族が少しずつでも気持ちを整理しやすくなるよう心掛ける。



### 10.室内の素材について

RC打ち放し、木材と石材を組み合わせ、耐久性の有無や部屋で執り行われる儀式に相応しい素材を選定。大きな壁面が出てくる部屋は、壁の素材を途中で切り替え、身体スケールに近づけるとともに、天井面との一体性によって開放的な印象を会葬者に与える。



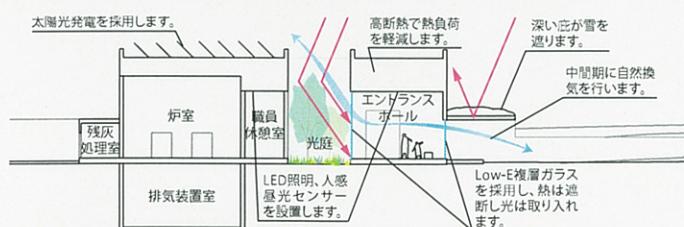
### 11.葬送儀式の流れと空間性



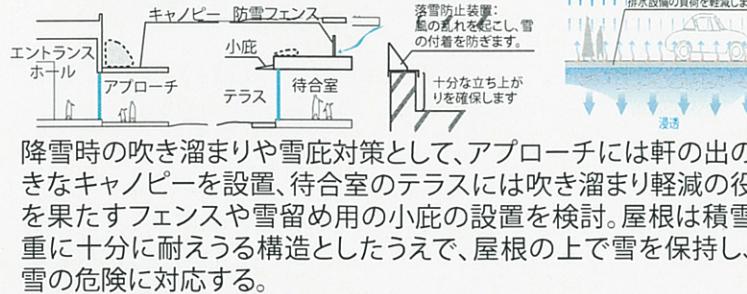
## 特定テーマ③環境に配慮し、長く使い続けられる葬斎場 ア)環境に配慮した取組

### 12.自然エネルギーの活用

施設用途(使用頻度)より下記の環境負荷低減を提案する。技術提案を求めるテーマに『設備に頼りすぎずに』とあり、極力地元で保守管理ができるように複雑な設備ではなく、シンプルな方法を提案する。



### 13.積雪、風対策について 浸透性のある舗装の採用



降雪時の吹き溜まりや雪庇対策として、アプローチには軒の出の大きなキャノピーを設置、待合室のテラスには吹き溜まり軽減の役割を果たすフェンスや雪留め用の小庇の設置を検討。屋根は積雪荷重に十分に耐えうる構造としたうえで、屋根の上で雪を保持し、落雪の危険に対応する。

### 7.記憶に残る風景 安全安心なアプローチ計画

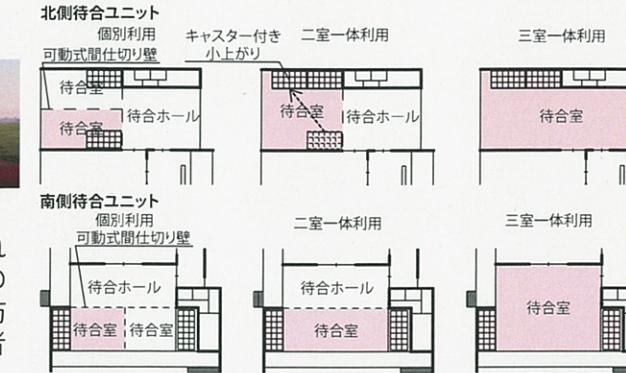


冬の吹雪時に想定される西北西と、南方からの風に対し、建物と壁、防風樹木によって、会葬者を守る計画。

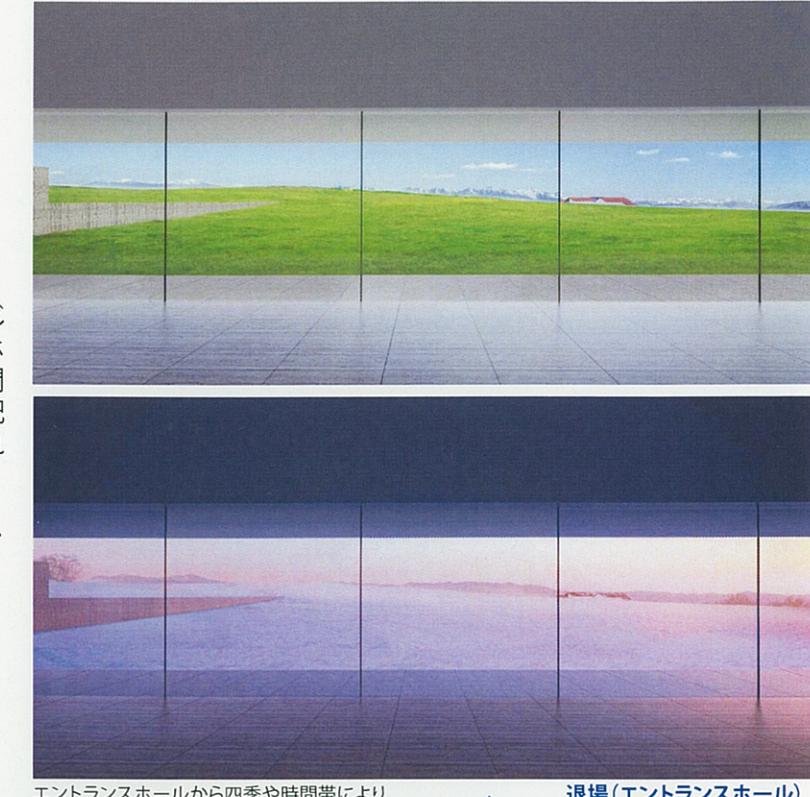
アプローチは1/20勾配のスロープとなっており、安全に無理なくアクセスできる。キャノピーによりカバーされ、大型バスも寄り付き可能な車寄せを設置する。

施設内は段差スロープのないフラットな空間とし防滑性に優れた床材を採用する。

### 8.待合ユニットのフレキシブルな利用



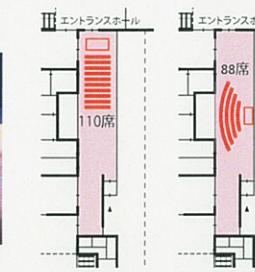
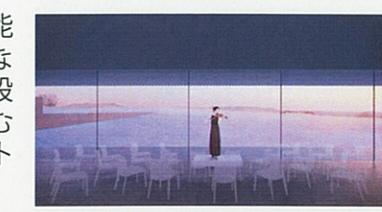
会葬者の人数、使われ方に応じて、待合室同士、待合室と待合ホールを一体で利用できる可動間仕切りを設置する。防音効果に配慮しつつ、フレキシブルな使われ方に対応する。



△ 退場(エントランスホール)  
収骨(炉前ホール※)

### 9.葬斎場の休日におけるイベント利用

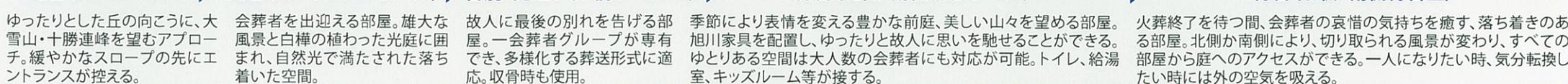
将来、職員の休日となる可能性がある友引(年間約60日)など、火葬予約のない日に施設を貸し出し、広大な前庭を望むエントランスホールでイベントを行う事も検討。



エントランスホールから四季や時間帯により移り変わる風景を見る



△ 待合(北側・南側待合室)



火葬終了を待つ間、会葬者の哀惜の気持ちを癒す、落ち着きのある部屋。北側か南側により、切り取られる風景が変わり、すべての部屋から庭へのアクセスができる。一人になりたい時、気分転換したい時には外の空気を吸える。

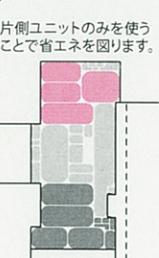
### 14.構造安全性について



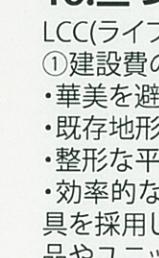
### 特定テーマ③環境に配慮し、長く使い続けられる葬斎場 イ)ライフサイクルコストの比較検討内容

#### 16.ユニット化による省エネ

北側・南側でユニット化することにより、予約の少ない時期などは効率的に、片側のユニットのみ利用。



また炉排熱利用について、炉メーカーとの協議を行い、排熱利用するほどの施設規模ではないと判断した場合には、過剰な設備を避ける計画とする。



#### 17.合理的な造成計画

現状想定している建築発生土に加え、地下埋設の可能性がある建築内電気室やオイルタンク等により掘削され発生する土を敷地内の丘に転用し、初期費用の低減を図る。



#### 18.三つの観点からLCCを削減

##### LCC(ライフサイクルコスト)の縮減

###### ①建設費の削減

- ・華美を避けシンプルなデザインとする。
- ・既存地形を活かし、造成面積を最小限に抑制。
- ・整形な平面、断面による躯体工事費を削減。
- ・効率的な幹線回路と分電盤や機能重視の汎用品照明器具を採用し、電気設備コストを削減・水回りの集約化、既製品やユニット工法の採用により、機械設備コストを削減。
- ・建設発生土は庭(丘)に転用し場外搬出土量の低減する
- ②光熱水費の削減
- ・自然エネルギーの活用により削減する。
- ③改修・修繕費の削減
- ・積雪寒冷地における対候性に優れた材料と適切な工法とディテールを採用して、修繕間隔を長期化を検討する。
- ・耐久性が高く清掃しやすい材料を採用する。
- ・余裕ある設備経路とする。
- ・コンパクトな形状でメンテナンス範囲の低減、将来的な改修、設備更新を容易にする。
- ・十分な耐震性があり長寿命化を実現する。

1-18.の各提案項目については、大雪葬斎組合、3町の行政との協議、地元住民との話し合いにより柔軟に検討を重ねてまいります。